



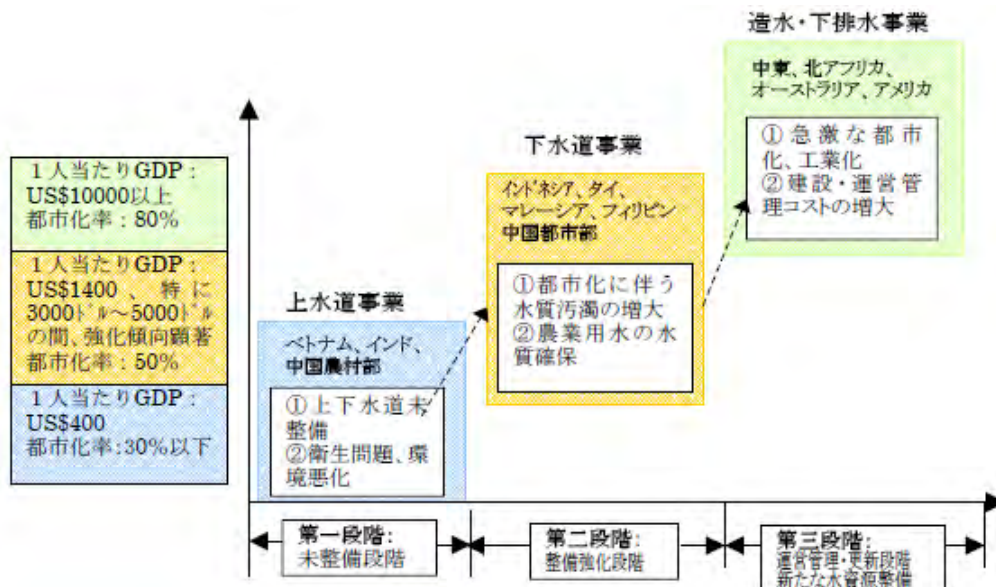
備考：(株)東レ推定

出典：急拡大する世界水ビジネス市場へのアプローチ 中間報告書、2007年11月27日、
産業競争力懇談会 水資源プロジェクト

図4 世界水ビジネスの規模

産業競争力懇談会では、世界の市場を4つの領域に分け、それぞれへのアプローチについて提言を行っている。図5、表4、表5は、産業競争力懇談会による市場分析とアプローチに係る提言である。世界で水ビジネスを展開するうえでアジアとMENA諸国（中東・北アフリカ）を有望な市場として位置づけており、産官学の連携により国際競争力を獲得する技術革新、運営維持管理も含んだモデル事業を形成し、展開することを提言している。

尚、本調査において対象国として選定したカンボジアと中国は、表4のカテゴリー区分において、それぞれB領域、C領域に該当すると考えられる。



出典：急拡大する世界水ビジネス市場へのアプローチ 中間報告書、2007年11月27日、
産業競争力懇談会 水資源プロジェクト

図5 日本企業が目標とする地域とその課題

表 4 世界水ビジネスのカテゴリー区分

		水資源豊富 ←	→ 水資源不足
		従来技術の領域	先進技術の領域（造水・下排水・高度処理・地下水処理）
資金潤沢 ↑ ↓ 資金欠乏	第三段階の国・地域	A 世界各国 既に欧州水メジャーが優位な領域	C MENA 諸国、中国都市部… 新規欧米企業参入、 欧州水メジャーも参入
	第二段階の国・地域		
	第一段階の国・地域	B マレーシア、タイ、インドネシア、インド、ベトナム… 欧州水メジャー進出開始	D アジア周辺国、アフリカ… 一部地域を除き未進出

A…すでに欧州 2 大メジャーが優位な領域であり、参入には国家的戦略が必要。

B…ODA など日本の国際貢献が活発に行われている領域。

C…日本の先進技術を活用し、進出可能な領域。ただし革新技術の創出が不可欠。

D…潜在的市場規模は大きく、今後の R & D に期待される領域。

出典：急拡大する世界水ビジネス市場へのアプローチ 中間報告書、2007 年 11 月 27 日、
産業競争力懇談会 水資源プロジェクト

【参考】 市場へのアプローチについての提言

B 領域（タイ、インドネシア、インド、ベトナム、他）

【目標】世界市場における上下水道事業の先鞭をつけ、実績とノウハウを蓄積して中核企業並びに S P C を育成する。

【提言】我国はこの領域において、建設主体の O D A で貢献しているが、現地で十分に使いこなせておらず、維持管理・運営面では貢献できていない。そこで産官学の連携により、一定期間の運営維持管理業務を含んだ国際貢献のスキームを構築し、その成果はモデル事業を創出して活かしていく。

C 領域（中東・北アフリカ諸国、中国都市部）

【目標】本領域は最も市場規模が拡大している地域であり、新規メジャーも進出している地域である。国際競争力（コスト競争力）を獲得するためには、機器調達及び建設、運営・管理のノウハウとともに、ブレークスルーとなる革新技術を付与し、水ビジネス分野への業務拡大を図る。

【提言】国内企業が国際競争力を獲得するためには、コストダウンに併せ、革新技術の創出が不可欠である。産官学連携して早急に取り組む必要がある。

①大幅な省エネ、安心安全のための水質、水環境負荷低減に着目した革新要素技術の構築

②革新要素技術を組み入れた新システムの開発と実証

③産官学連携した技術開発体制の構築と推進

④外交ルートも活用した現地固有の情報入手とプロジェクトの創出、また L L P 制度（有限責任事業組合制度）などによる推進体制の整備

⑤上記成果をふまえて、S P C を立ち上げ、事業化推進

出典：急拡大する世界水ビジネス市場へのアプローチ 中間報告書、2007 年 11 月 27 日、
産業競争力懇談会 水資源プロジェクト